第４章

高齢者福祉に関するアンケート調査

（64 歳までの方）

第４章　高齢者福祉に関するアンケート調査結果（64 歳までの方）

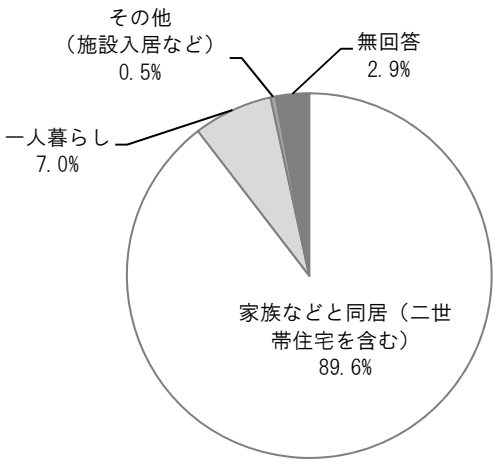
１　ご本人について

（１）世帯状況

○世帯状況をみると、「家族などと同居（二世帯住宅を含む）」（89.6%）が最も多く、次いで「一人暮らし」（7.0%）、「その他（施設入居など）」（0.5%）の順となっています。

○世帯の人数および構成者をみると、同居している人数では「２人」（29.6%）が最も多く、次いで「３人」（24.6%）、「５人以上」（19.2%）の順となっています。同居している人では、「配偶者」（86.3%）が最も多く、次いで「息子」（39.2%）、「娘」（37.5%）、「親」（28.9%）の順となっています。

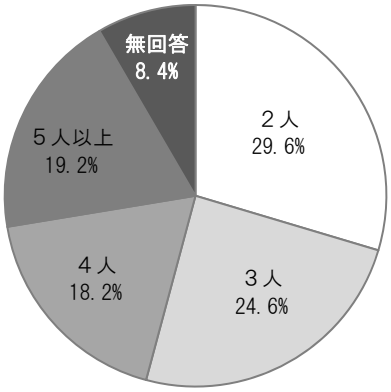
Ⅰ-問4　世帯状況



若年者 n=441

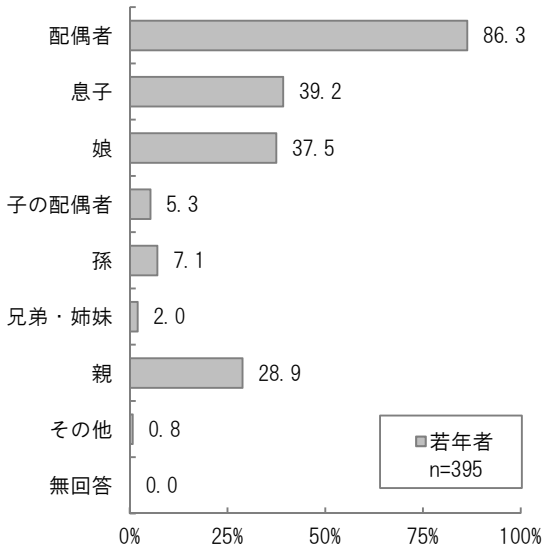
Ⅰ-問4-1　世帯の人数および構成者

同居している人数



若年者 n=395

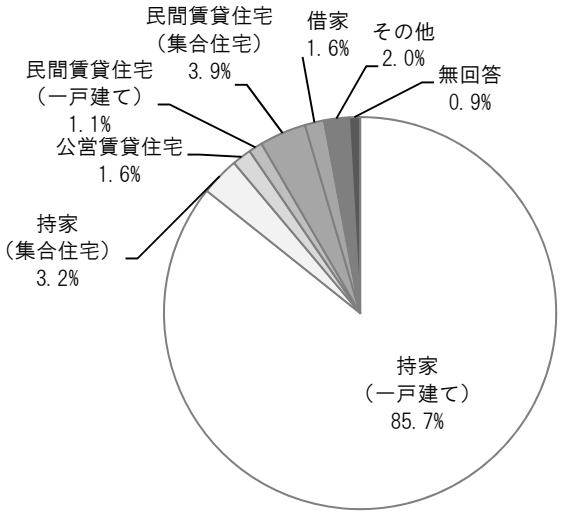
同居している人



（２）現在の居住環境

○現在暮らしている家の状況をみると、「持家（一戸建て）」（85.7%）が最も多く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」（3.9%）、「持家（集合住宅）」（3.2%）の順となっています。

Ⅰ-問5　現在暮らしている家の状況

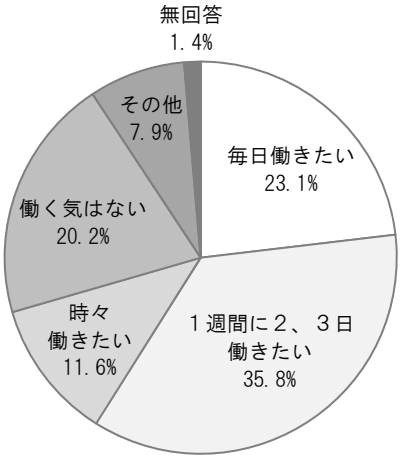


若年者 n=441

（３）今後（65 歳を迎えた時）の就労希望

○今後（65 歳を迎えた時）の就労希望をみると、「１週間に２、３日働きたい」（35.8%）が最も多く、次いで「毎日働きたい」（23.1%）、「働く気はない」（20.2%）の順となっています。

Ⅰ-問6　今後（65歳を迎えた時）の就労希望



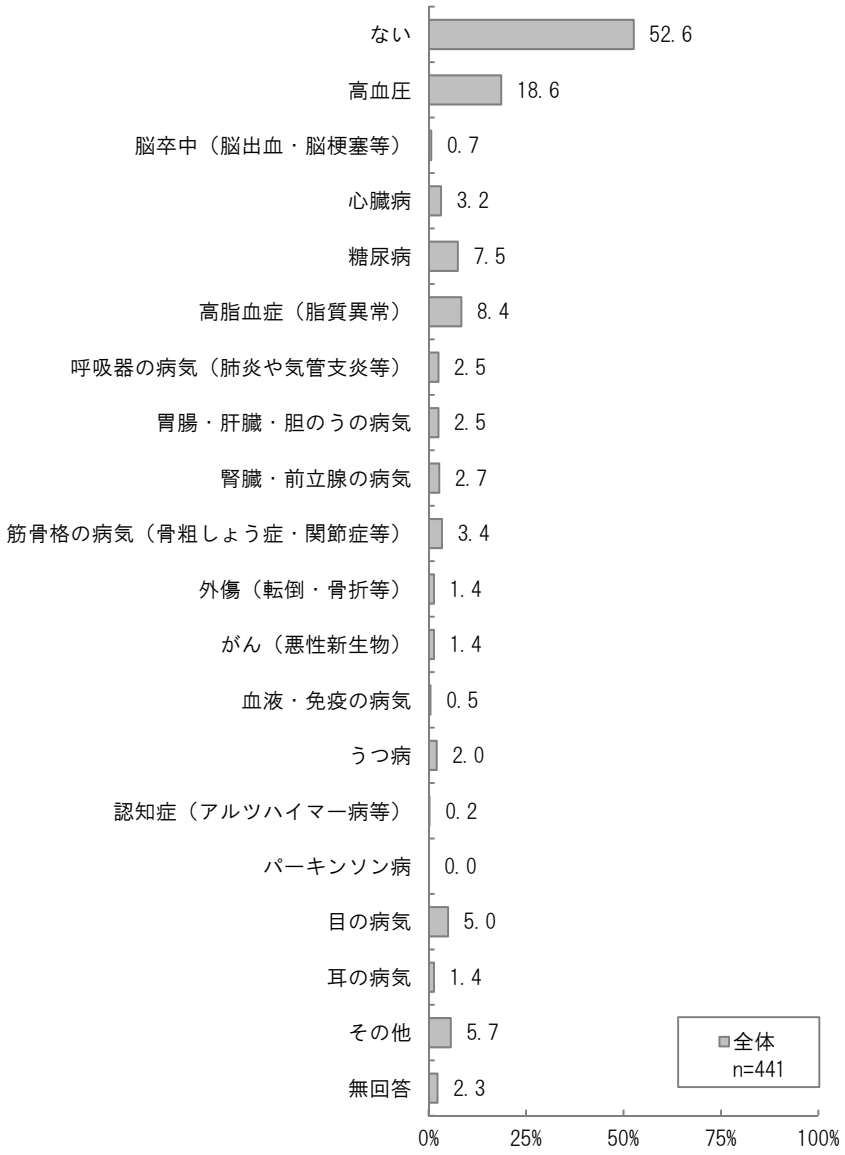
若年者 n=441

２　健康状態について

（１）治療及び通院の状況

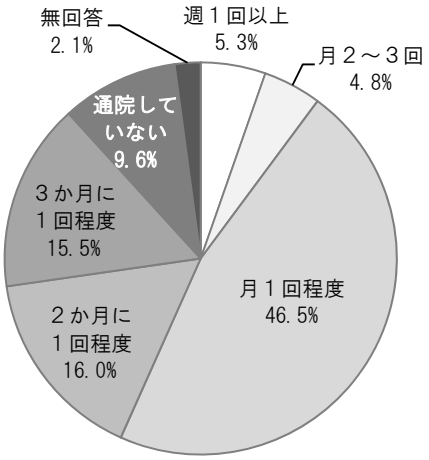
○現在、治療中または後遺症のある病気をみると、「ない」（52.6%）が最も多く、次いで「高血圧」（18.6%）、「高脂血症（脂質異常）」（8.4%）、「糖尿病」（7.5%）、「目の病気」（5.0%）の順となっています。

Ⅱ-問1　現在、治療中または後遺症のある病気



○通院の回数をみると、「月１回程度」（46.5%）が最も多く、次いで「２か月に１回程度」（16.0%）、「３か月に１回程度」（15.5%）の順となっています。

Ⅱ-問1-1　通院の回数

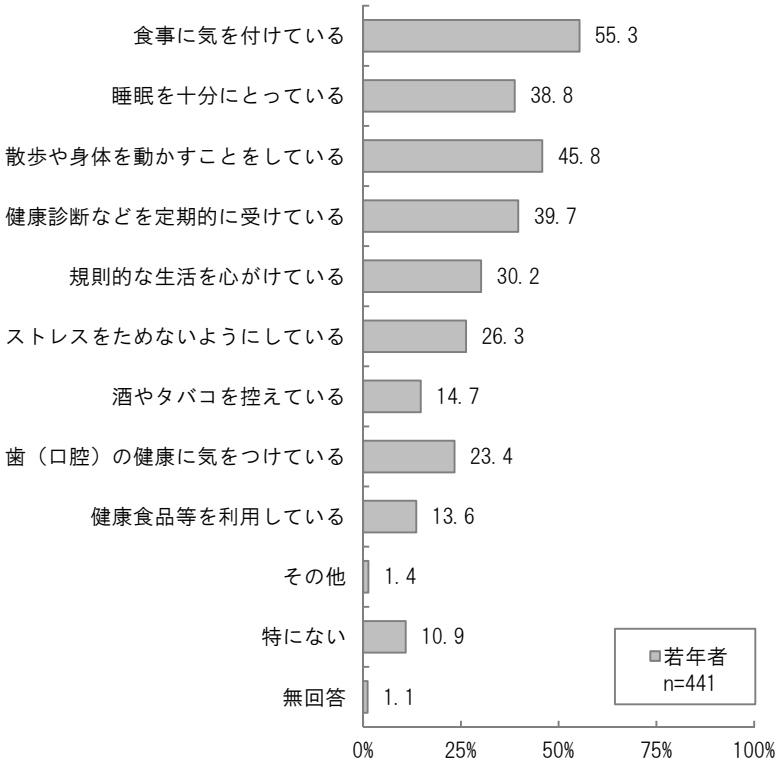


若年者 n=187

（２）健康のために行っていること

○健康のために気をつけていることをみると、「食事に気を付けている」（55.3%）が最も多く、次いで「散歩や身体を動かすことをしている」（45.8%）、「健康診断などを定期的に受けている」（39.7%）、「睡眠を十分にとっている」（38.8%）、「規則的な生活を心がけている」（30.2%）の順となっています。

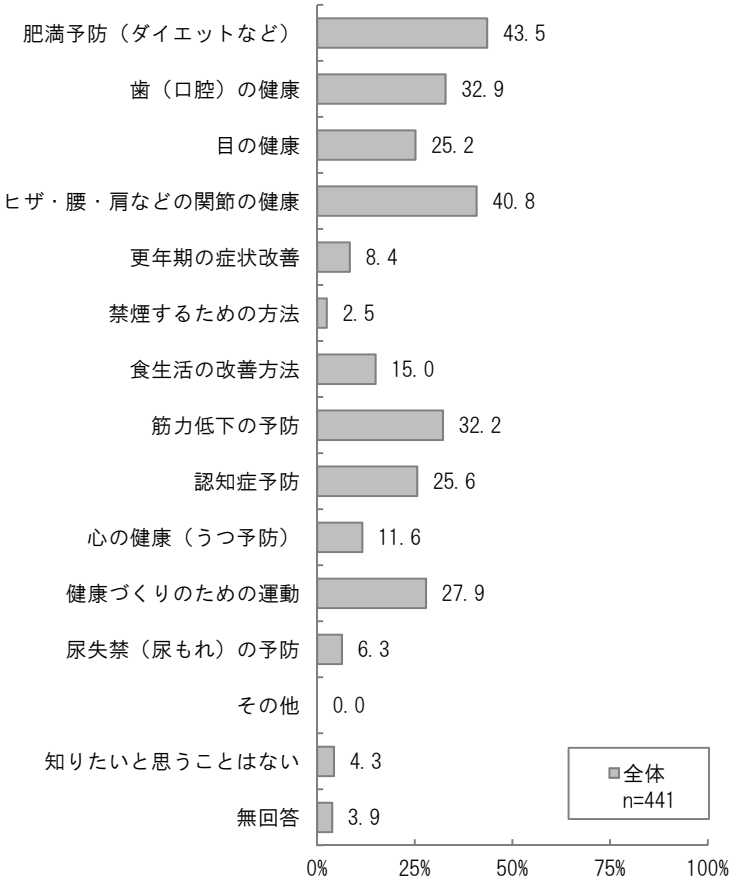
Ⅱ-問2　健康のために気をつけていること



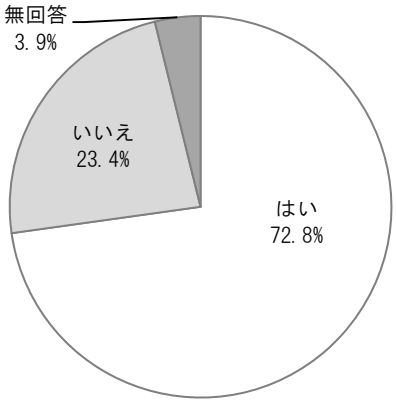
○健康について関心のあることをみると、「肥満予防（ダイエットなど）」（43.5%）が最も多く、次いで「ヒザ・腰・肩などの関節の健康」（40.8%）、「歯（口腔）の健康」（32.9%）、「筋力低下の予防」（32.2%）、「健康づくりのための運動」（27.9%）の順となっています。

○人間ドック・健康診断の受診の有無をみると、72.8%が受診していると回答しています。

Ⅱ-問3　健康について関心のあること



Ⅱ-問4　人間ドック・健康診断の受診の有無



若年者 n=441

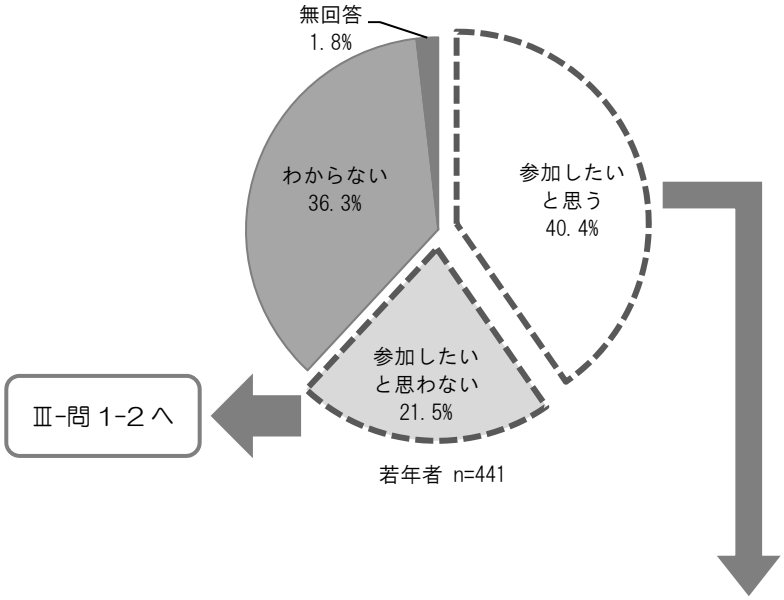
３　介護予防（要介護状態にならないための予防）について

（１）介護予防教室への参加意向

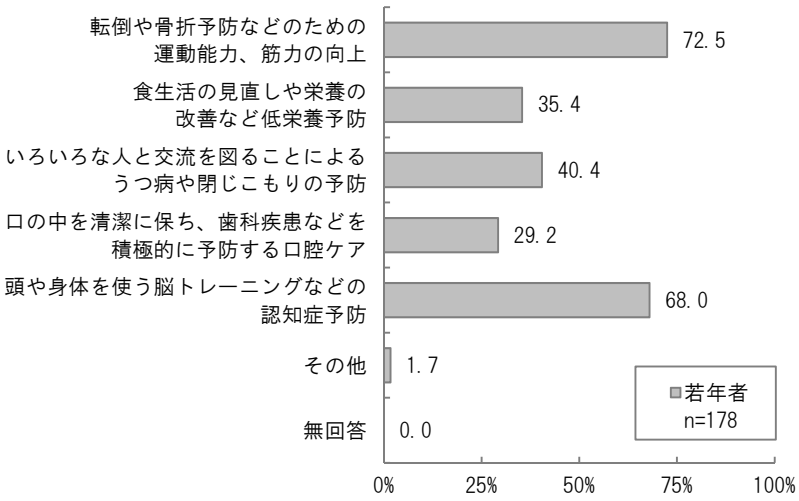
○介護予防教室への参加意向をみると、「参加したいと思う」（40.4%）が最も多く、次いで「わからない」（36.3%）、「参加したいと思わない」（21.5%）の順となっています。

○参加したい介護予防事業をみると、「転倒や骨折予防などのための運動能力、筋力の向上」（72.5%）が最も多く、次いで「頭や身体を使う脳トレーニングなどの認知症予防」（68.0%）、「いろいろな人と交流を図ることによるうつ病や閉じこもりの予防」（40.4%）の順となっています。

Ⅲ-問1　介護予防教室への参加意向

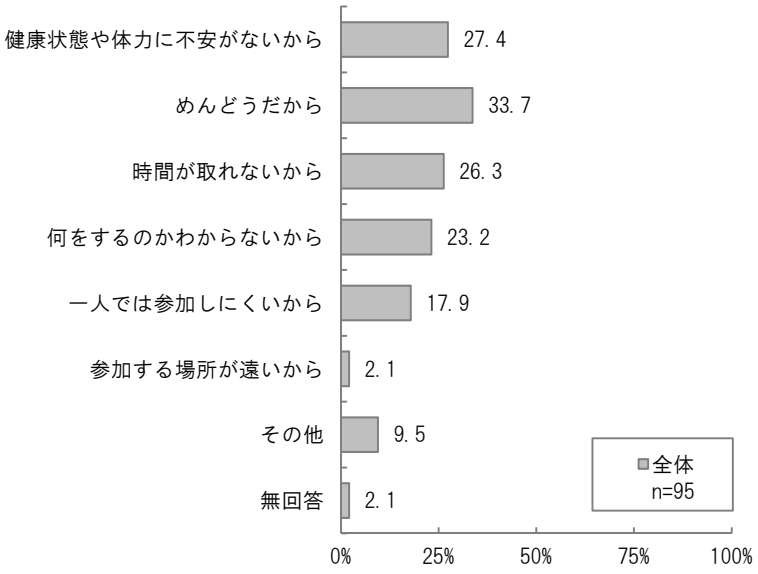


Ⅲ-問1-1　参加したいと思う介護予防事業



○介護予防教室への参加意向がない理由をみると、「めんどうだから」（33.7%）が最も多く、次いで「健康状態や体力に不安がないから」(27.4%)、「時間が取れないから」(26.3%)の順となっています。

Ⅲ-問1-2　介護予防教室への参加意向がない理由



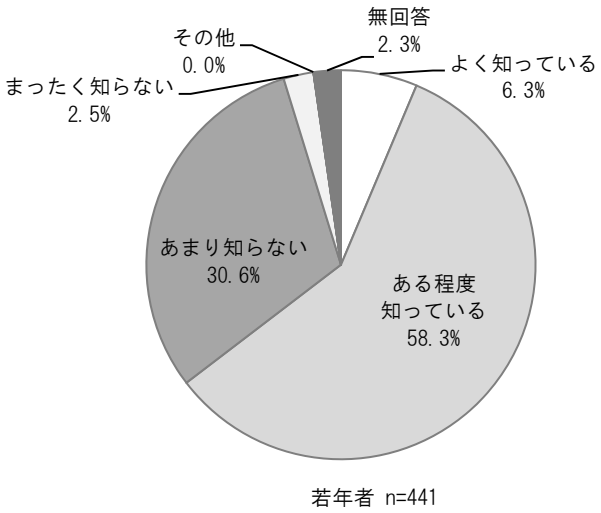
４　認知症について

（１）認知症への対策

○認知症についての周知状況をみると、「ある程度知っている」（58.3%）が最も多く、次いで「あまり知らない」（30.6%）、「よく知っている」（6.3%）、「全く知らない」（2.5%）の順となっていますおり、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせると概ね９割弱の方が知っていると回答しています。

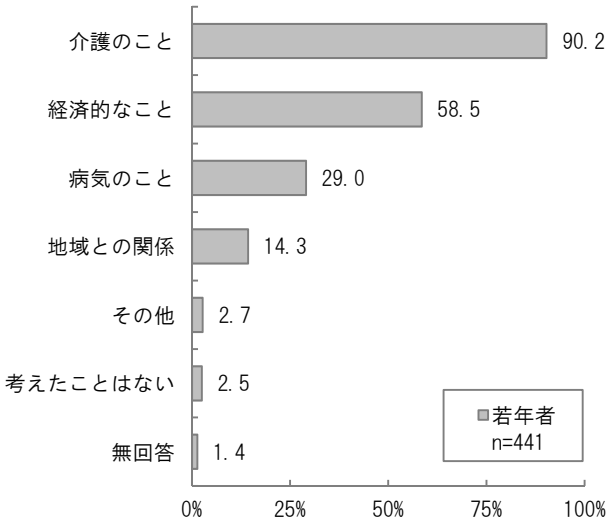
○あなた自身や家族が認知症になった時に心配なことをみると、「介護のこと」（90.2%）が最も多く、次いで「経済的なこと」（58.5%）、「病気のこと」（29.0%）の順となっています。

Ⅳ-問1　認知症についての周知状況



若年者 n=441

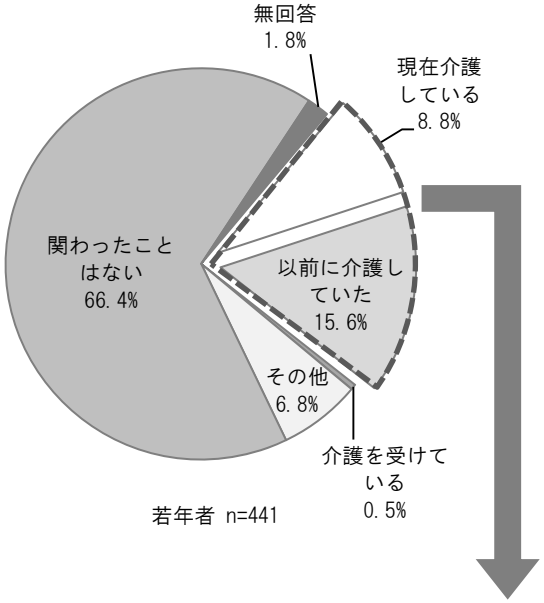
Ⅳ-問2　あなた自身や家族が認知症になった時に心配なこと



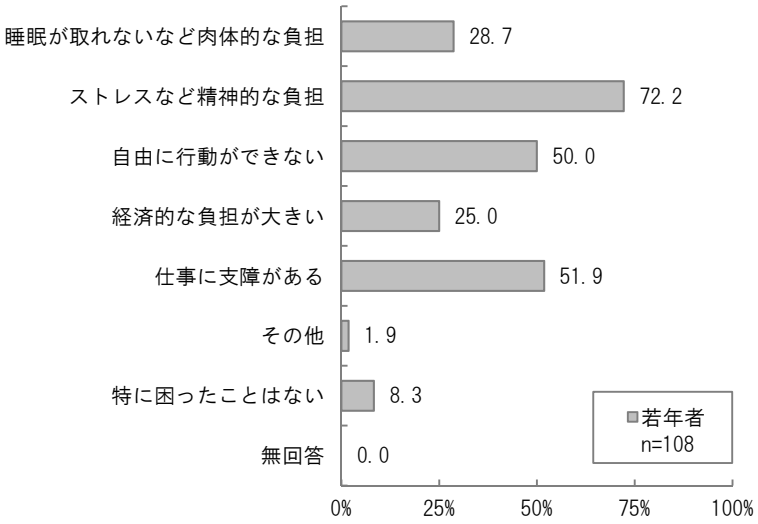
○認知症高齢者の介護経験をみると、「以前に介護していた」（15.6%）、「現在介護している」（8.8%）を合わせた 24.4%が経験ありと回答しています。

○認知症高齢者を介護する上で、困ったことをみると、「ストレスなど精神的な負担」（72.2%）が最も多く、次いで「仕事に支障がある」（51.9%）、「自由に行動できない」（50.0%）の順となっています。また、「特に困ったことはない」は 8.3%でした。

Ⅳ-問3　認知症高齢者の介護経験

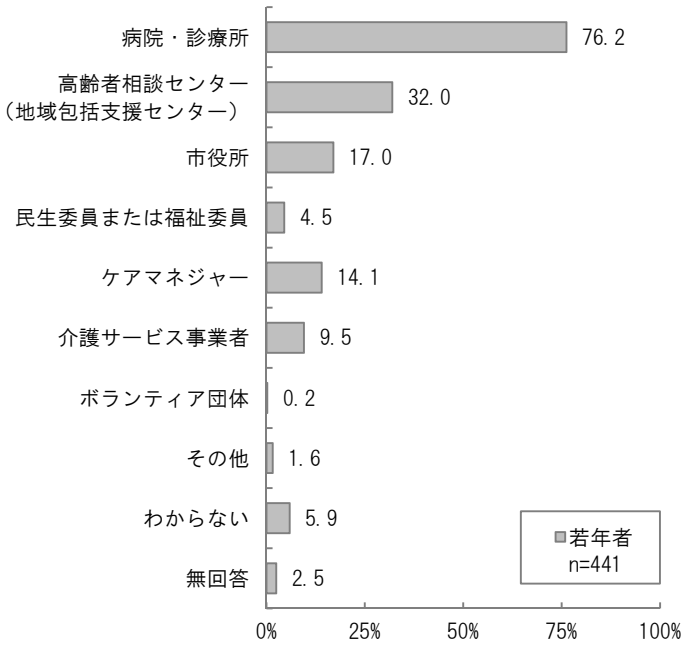


Ⅳ-問3-1　認知症高齢者を介護する上で、困ったこと



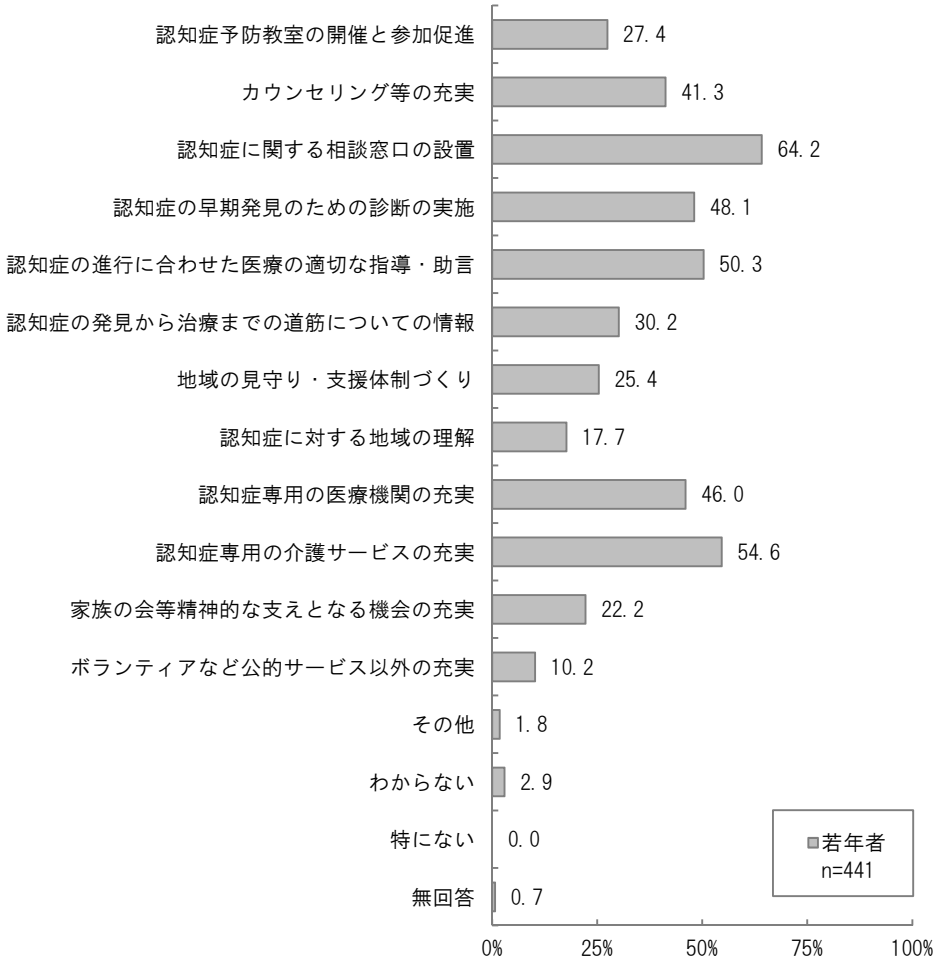
○あなた自身や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先をみると、「病院・診療所」（76.2%）が最も多く、次いで「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」（32.0%）、「市役所」（17.0%）の順となっています。

Ⅳ-問4　あなた自身や身近な人に認知症の疑いがある時の相談先



○認知症高齢者に対する支援として必要なことをみると、「認知症に関する相談窓口の設置」（64.2%）が最も多く、次いで「認知症専用の介護サービスの充実」（54.6%）、「認知症の進行に合わせた医療の適切な指導・助言」（50.3%）、「認知症の早期発見のための診断の実施」（48.1%）、「認知症専用の医療機関の充実」（46.0%）の順となっています。

Ⅳ-問5　認知症高齢者に対する支援として必要なこと



5　地域での活動について

（１）グループ活動等の状況

○グループ等への参加頻度について週１回以上の参加状況をみると、「⑦収入のある仕事」（54.9%）、「②スポーツ関係のグループやクラブ」（15.2%）、「③趣味関係のグループ」（7.0%）の順となっています。

V-問1　グループ等への参加頻度

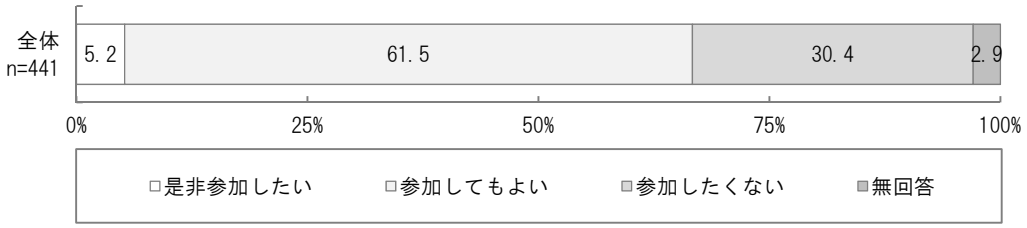
全体　n=441	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.2%	0.5%	1.1%	2.9%	3.6%	78.7%	12.9%
②スポーツ関係のグループやクラブ	2.0%	6.1%	7.0%	2.7%	5.0%	66.0%	11.1%
③趣味関係のグループ	0.7%	2.3%	4.1%	7.5%	7.9%	65.8%	11.8%
④学習・教養サークル	0.2%	0.7%	0.9%	2.3%	2.7%	79.6%	13.6%
⑤老人クラブ	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.7%	84.4%	14.7%
⑥町内会・自治会	0.5%	0.7%	0.5%	6.8%	37.0%	43.5%	11.1%
⑦収入のある仕事	47.6%	6.8%	0.5%	0.7%	1.4%	34.9%	8.2%

（２）地域づくりに対する参加意向

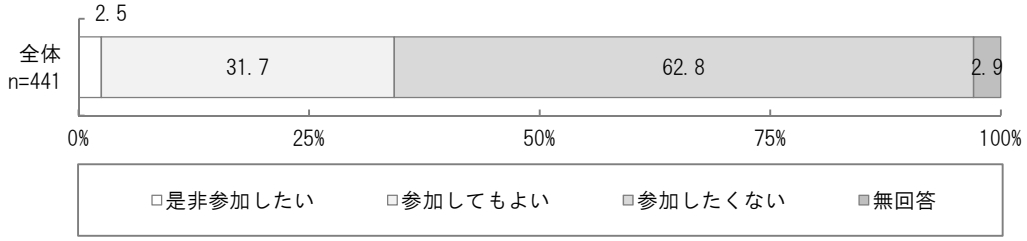
○参加者としてグループ活動などに参加してみたいかをみると、「是非参加したい」（5.2%）と「参加してもよい」（61.5%）を合わると 66.7%が参加意向ありとなっています。

○企画・運営（世話役）としてグループ活動などに参加してみたいかをみると、「是非参加したい」（2.5%）と「参加してもよい」（31.7%）を合わせると 34.2%が参加意向ありとなっています。

Ｖ-問2　参加者としてグループ活動等に参加してみたいか



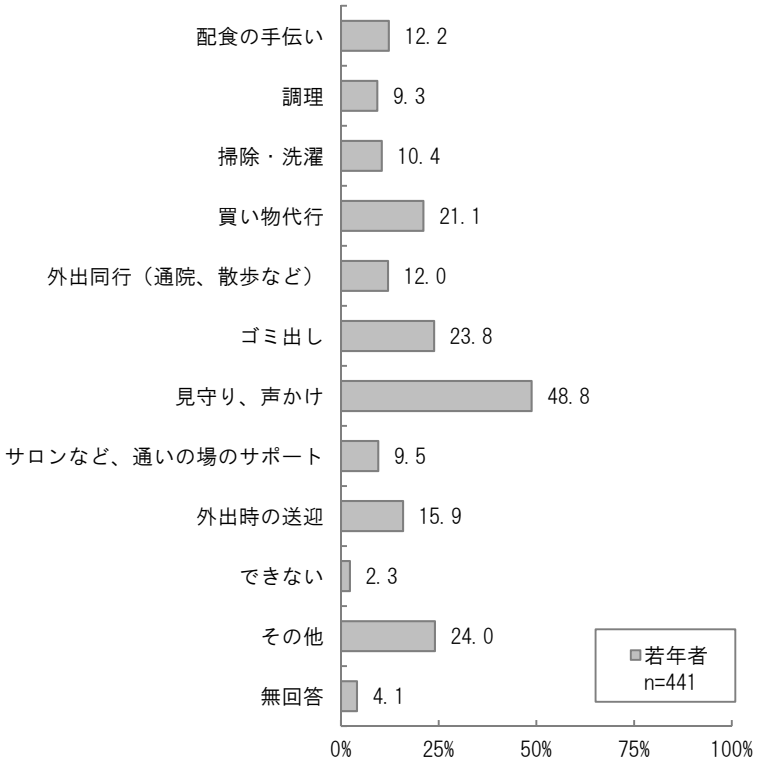
Ｖ-問3　企画・運営（世話役）としてグループ活動等に参加してみたいか



（３）地域住民が生活支援サービスとして支援できるもの

○自身が地域でできると思う支援をみると、「見守り・声かけ」（48.8%）が最も多く、次いで「ゴミ出し」（23.8%）、「買い物代行」（21.1%）、「外出時の送迎」（15.9%）、「配食の手伝い」（12.2%）、の順となっています。一方、「できない」は 2.3%でした。

V-問4　自身が地域でできると思う支援



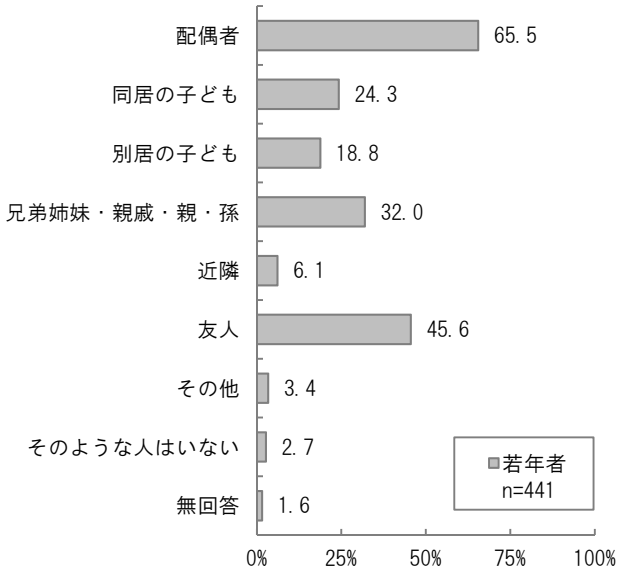
６　たすけあいについて

（１）困った際に頼る相手または頼られる相手

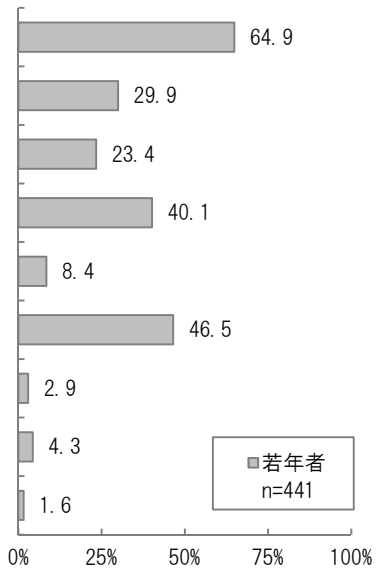
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をみると、「配偶者」（65.5%）が最も多く、次いで「友人」（45.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（32.0%）の順となっています。また「そのような人はいない」は 2.7%でした。

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人をみると、「配偶者」（64.9%）が最も多く、次いで「友人」（46.5%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（4.01%）の順となっています。また、「そのような人はいない」は 4.3%でした。

Ｖ-問5　心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人



Ｖ-問6　心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

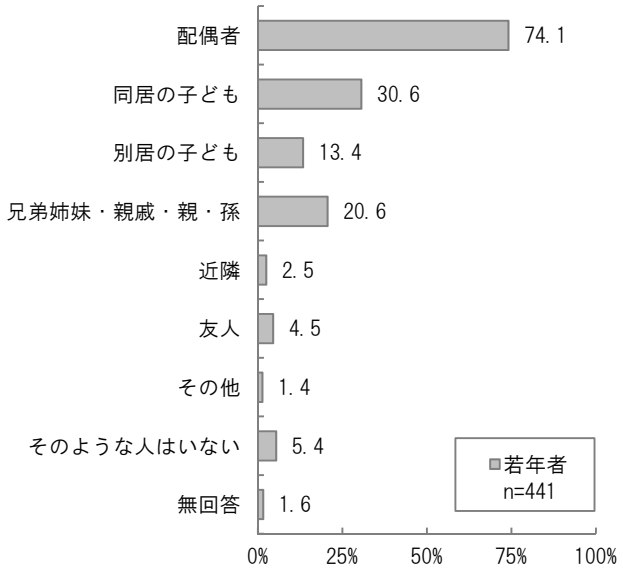


○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人をみると、「配偶者」（74.1%）が最も多く、次いで「同居の子ども」（30.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（20.6%）の順となっています。また「そのような人はいない」は 5.4%でした。

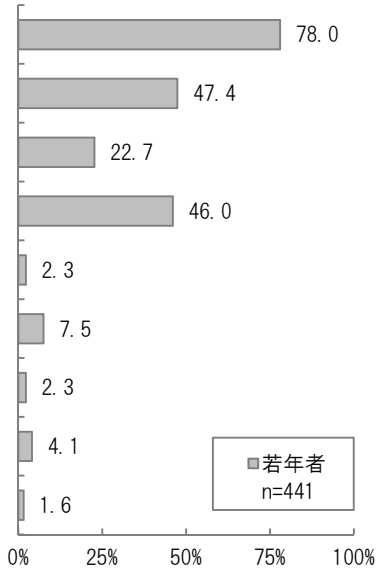
○看病や世話をしてあげる人をみると、「配偶者」（78.0%）が最も多く、次いで「同居の子ども」（47.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（46.0%）の順となっています。また「そのような人はいない」は 4.1%でした。

○家族や友人･知人以外で何かあったときに相談する相手をみると、「医師・歯科医師・看護師」（28.1%）が最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」（18.8%）、「ケアマネジャー」（6.6%）の順となっています。また、「そのような人はいない」は 46.5%でした。

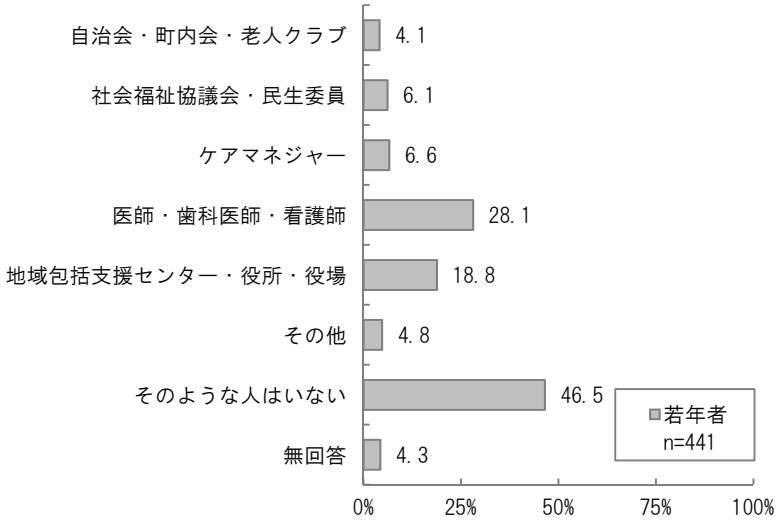
Ⅴ-問 7　病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



Ⅳ-問 8　看病や世話をしてあげる人



Ⅴ-問9　家族や友人･知人以外で何かあったときに相談する相手



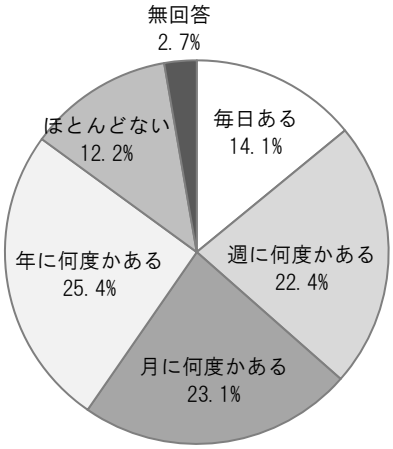
（２）友人・知人との交流状況

○友人・知人と会う頻度をみると、「年に何度かある」（25.4%）が最も多く、次いで「月に何度かある」（23.1%）となっています。

○１か月間に何人の友人・知人と会ったかをみると、「10 人以上」（29.5%）が最も多く、次いで「３～５人」（23.6%）となっています。

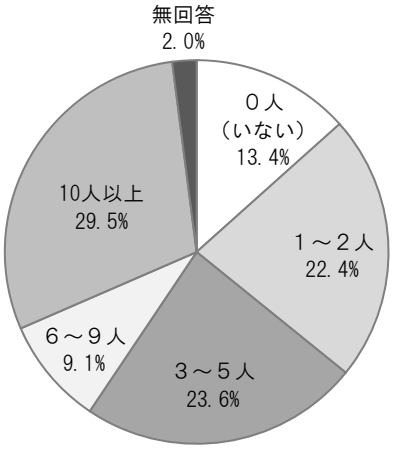
○よく会う友人・知人はどんな関係の人かをみると、「仕事での同僚・元同僚」（52.6%）が最も多く、次いで「近所・同じ地域の人」（39.2%）、「趣味や関心が同じ友人」（34.2%）の順となっています。

Ｖ-問 10　友人・知人と会う頻度



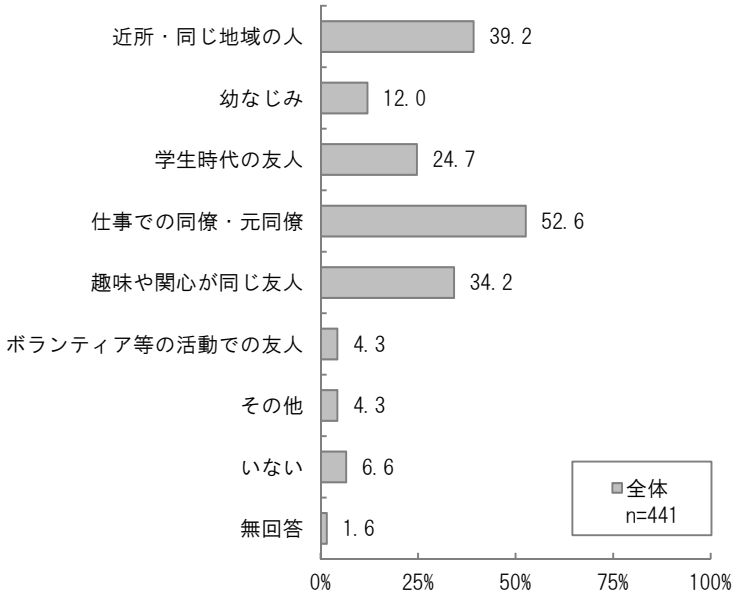
若年者 n=441

Ｖ-問 11　何人の友人・知人と会ったか（最近１か月間）



若年者 n=441

Ｖ-問12　よく会う友人・知人はどんな関係の人か



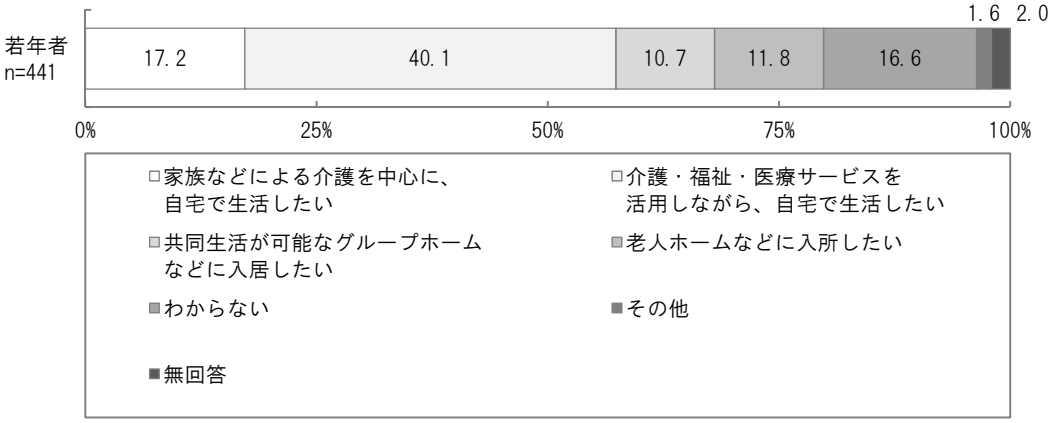
7　介護について

（１）介護に対する考え

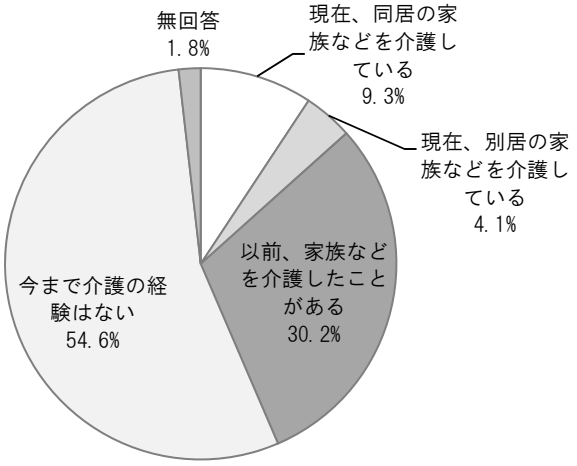
○介護が必要となった場合の意向をみると、「介護・福祉・医療サービスを活用しながら、自宅で生活したい」（40.1％）が最も多く、次いで「家族などによる介護を中心に、自宅で生活したい」（17.2％）の順となっています。また、「わからない」と回答した方は16.6％でした。

○介護経験の有無をみると、「今まで介護の経験はない」（54.6％）が最も多く、次いで「以前、家族などを介護したことがある」（30.2％）、「現在、同居の家族などを介護している」（9.3％）、「現在、別居の家族などを介護している」（4.1％）の順となっています。

Ⅵ-問1　介護が必要となった場合の意向



Ⅵ-問2　介護経験の有無

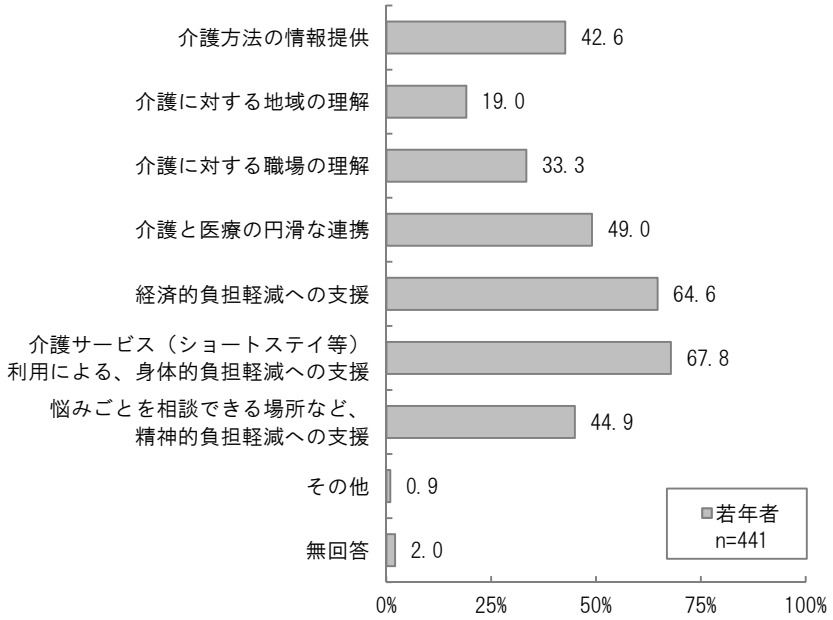


若年者 n=441

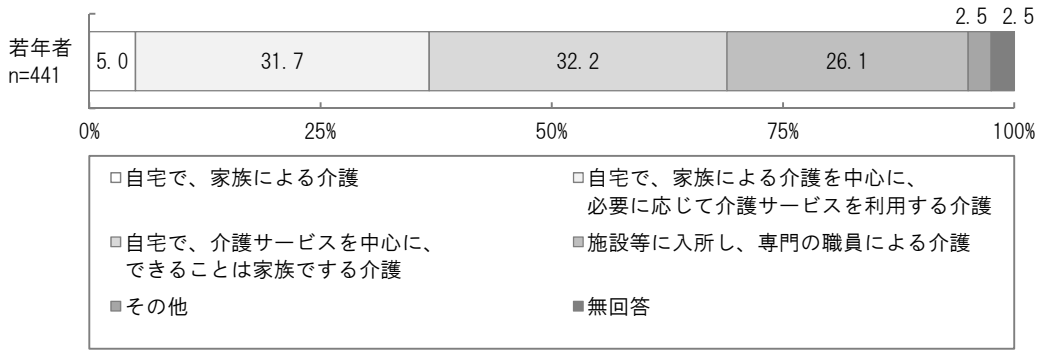
○在宅介護をする家族に対する支援として必要なことをみると、「介護サービス（ショートステイ等）利用による、身体的負担軽減への支援」（67.8%）が最も多く、次いで「経済的負担軽減への支援」（64.6%）、「介護と医療の円滑な連携」（49.0%）の順となっています。

○今後の高齢者介護のあり方として望ましいことをみると、「自宅で、介護サービスを中心に、できることは家族でする介護」（32.2%）が最も多く、次いで「自宅で、家族による介護を中心に、必要に応じて介護サービスを利用する介護」（31.7%）、「施設等に入所し、専門の職員による介護」（26.1%）となっています。

Ⅵ-問3　在宅介護をする家族に対する支援として必要なこと



Ⅵ-問4　今後の高齢者介護のあり方として望ましいこと



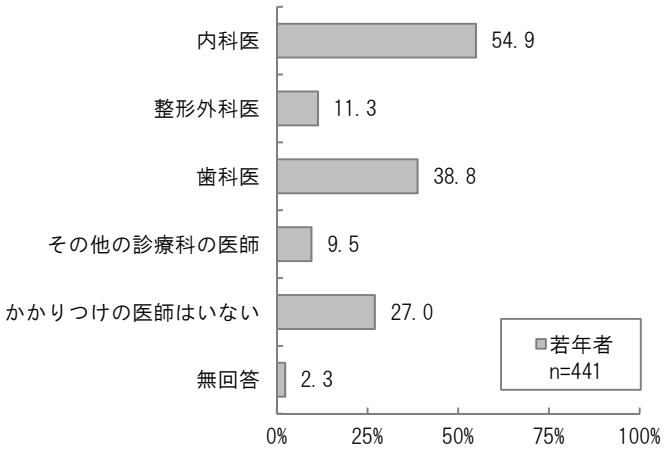
8　医療について

（１）在宅医療についての考え

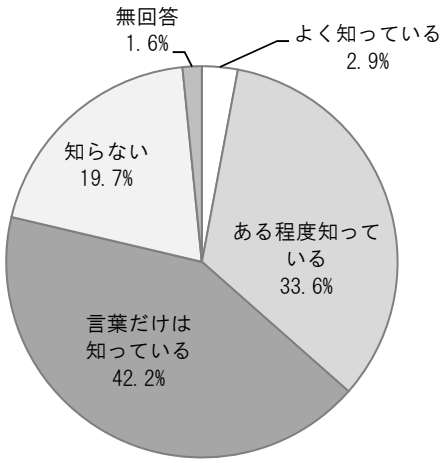
○かかりつけ医師の有無をみると、「内科医」（54.9%）が最も多く、次いで「歯科医」（38.8%）となっています。

○在宅医療についての周知状況をみると、「言葉だけは知っている」（42.2%）が最も多く、次いで「ある程度知っている」（33.6%）、「知らない」（19.7%）、「よく知っている」（2.9%）の順となっています。

Ⅶ-問1　かかりつけ医師の有無



Ⅶ-問2　在宅医療についての周知状況

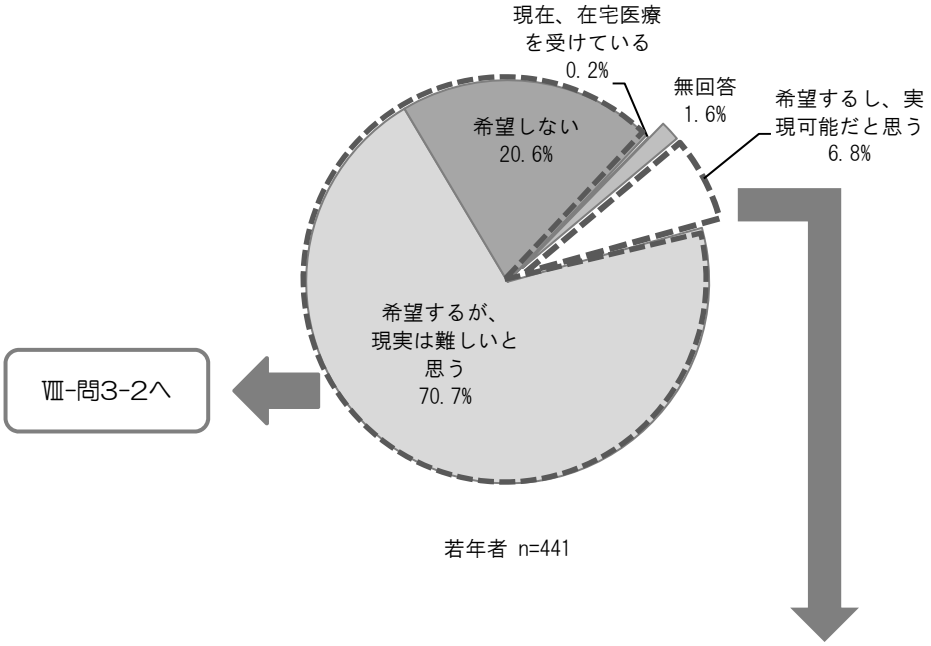


若年者 n=441

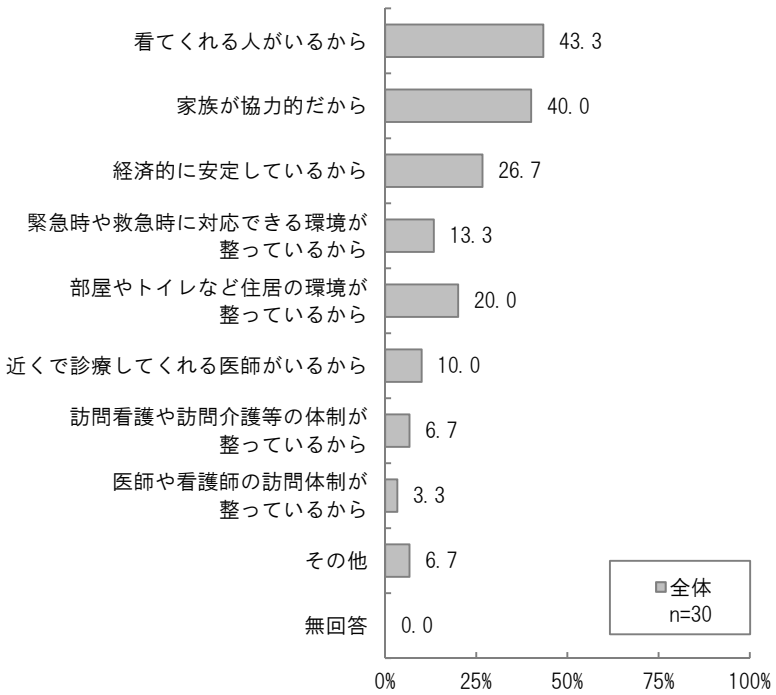
○在宅医療の意向および実現可能性の考えをみると、「希望するが、現実は難しいと思う」（70.7%）が最も多く、次いで「希望しない」（20.6%）、「希望するし、実現可能だと思う」（6.8%）の順となっています。

○実現可能だと思う理由をみると、「看てくれる人がいるから」（43.3%）が最も多く、次いで「家族が協力的だから」（40.0%）、「経済的に安定しているから」（26.7%）の順となっています。

Ⅶ-問3　在宅医療の意向および実現可能性の考え

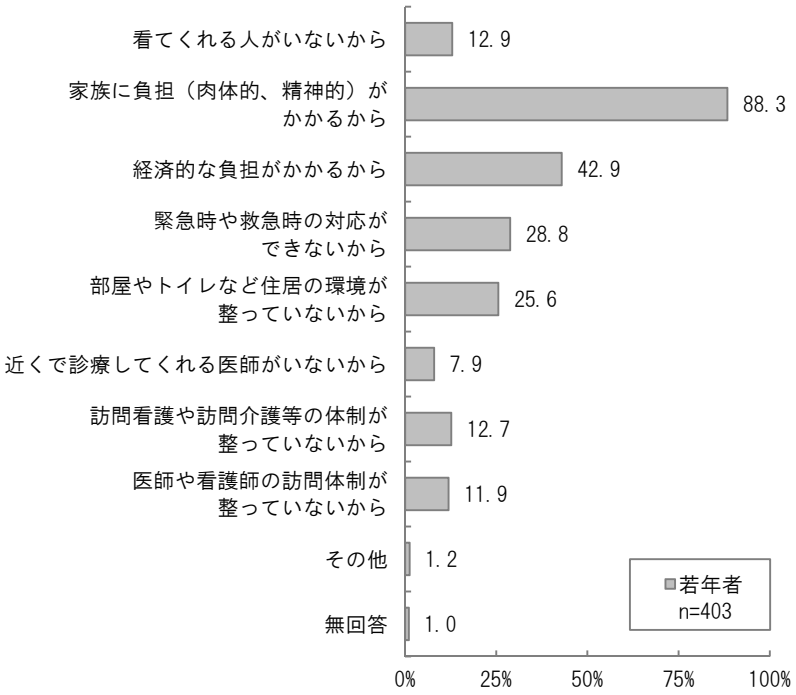


Ⅶ-問3-1　実現可能だと思う理由



○実現が難しいまたは希望しない理由をみると、「家族に負担（肉体的、精神的）がかかるから」（88.3%）が最も多く、次いで「経済的な負担がかかるから」（42.9%）、「緊急時や救急時の対応ができないから」（28.8%）の順となっています。

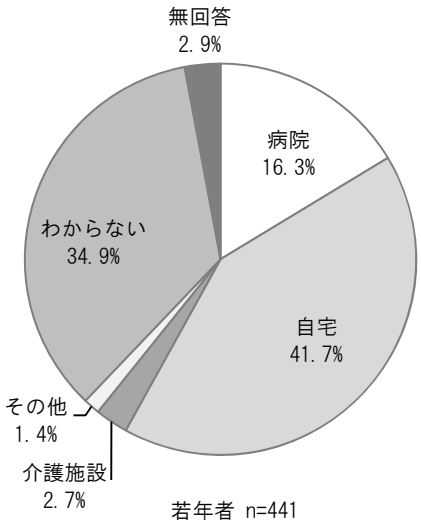
Ⅶ-問3-2　実現が難しいまたは希望しない理由



（２）終末期について

○人生の最期を迎える場所の希望をみると、「自宅」（41.7%）が最も多く、次いで「わからない」（34.9%）、「病院」（16.3%）の順となっています。

Ⅶ-問4　人生の最期を迎える場所の希望

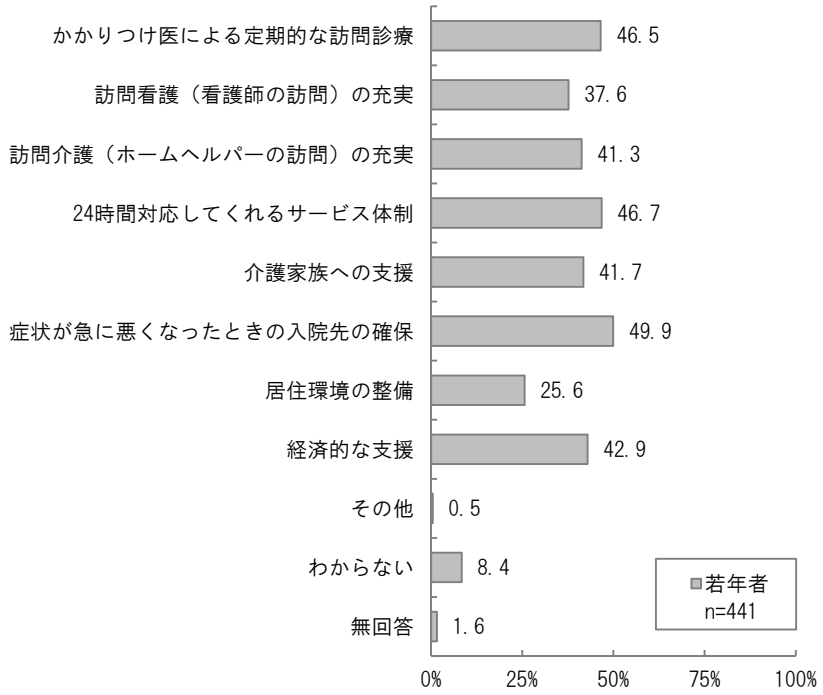


○在宅医療を実現するために必要だと思うことをみると、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」（49.9%）が最も多く、次いで「24時間対応してくれるサービス体制」（46.7%）、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」（46.5%）、「経済的な支援」（42.9%）、「介護家族への支援」（41.7%）、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」（41.3%）の順となっています。

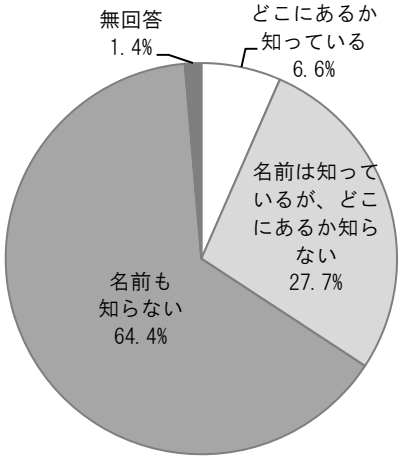
○24時間体制の在宅療養支援病院や診療所の周知状況をみると、「名前も知らない」が64.4%となっています。

○訪問看護ステーションの周知状況をみると、「名前も知らない」が 55.3%となっています。

Ⅶ-問5　在宅医療を実現するために必要だと思うこと

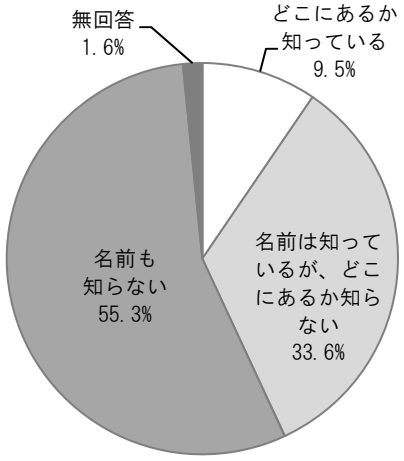


Ⅶ-問 6　24 時間体制の在宅療養支援病院や診療所の周知状況



若年者 n=441

Ⅶ-問 7　訪問看護ステーションの周知状況



若年者 n=441

９　高齢者福祉の認識について

（１）高齢者福祉に対する認識

○高齢者介護への関心の有無をみると、68.7%が関心があると回答しています。

○家族を介護することについての抵抗感の有無をみると、67.8%が抵抗がないと回答しています。一方、家族に介護されることについての抵抗感の有無をみると、56.7%が抵抗があると回答しています。

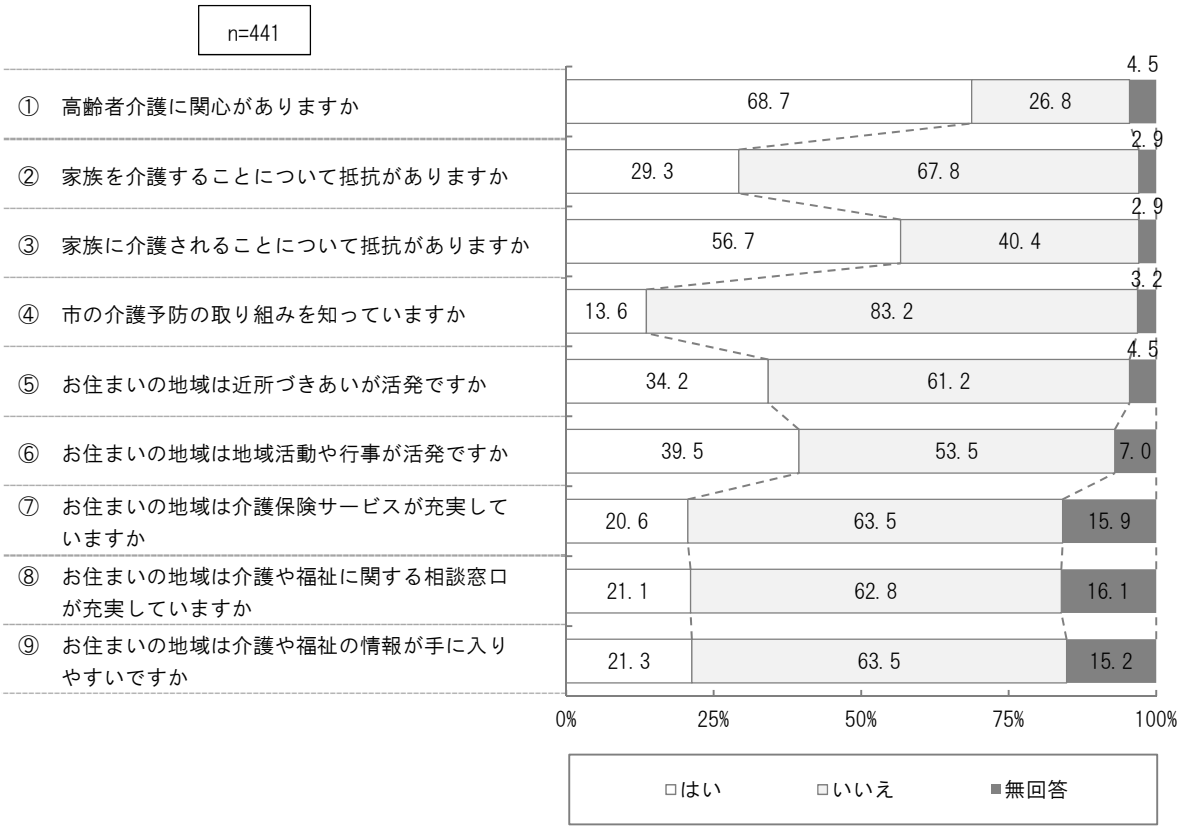
○市の介護予防の取り組みについての周知状況をみると、83.2%が知らないと回答しています。

○住んでいる地域についてみると、近所づきあいでは 61.2%が、地域活動や行事では53.5%が活発ではないと回答しています。

○介護保険サービスが充実しているかをみると、63.5%が充実していないと回答しています。

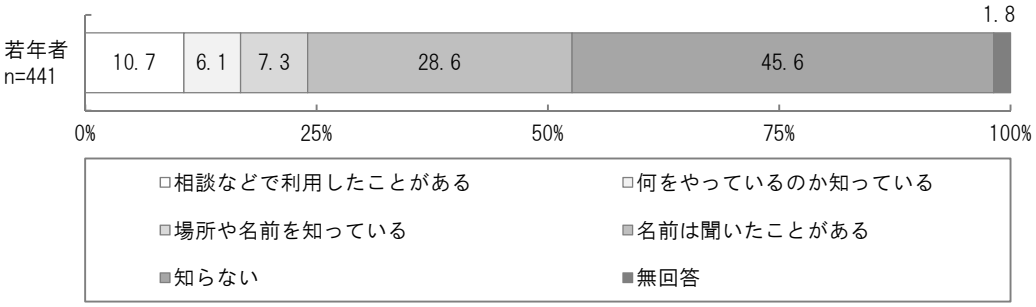
○介護や福祉についてみると、62.8%が相談窓口が充実していないと回答し、63.5%が情報が手に入りにくいと回答しています。

Ⅷ-問1　高齢者福祉の認識に関する事柄



○「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」についての周知状況をみると、「知らない」（45.6%）が最も多く、次いで「名前は聞いたことがある」（28.6%）、「相談などで利用したことがある」（10.7%）の順となっています。

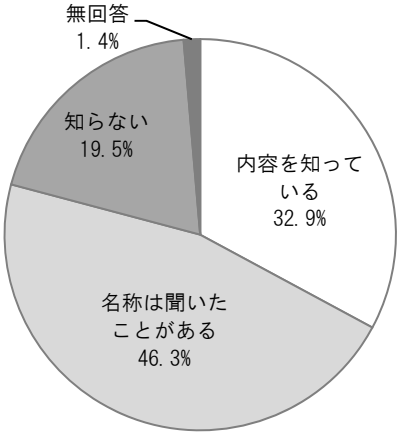
Ⅷ-問2　高齢者相談センター（地域包括支援センター）についての周知状況



（２）高齢者虐待について

○「高齢者虐待」についての周知状況をみると、「名前は聞いたことがある」（46.3%）が最も多く、次いで「内容を知っている」（32.９%）となっています。一方、「知らない」は 19.5%でした。

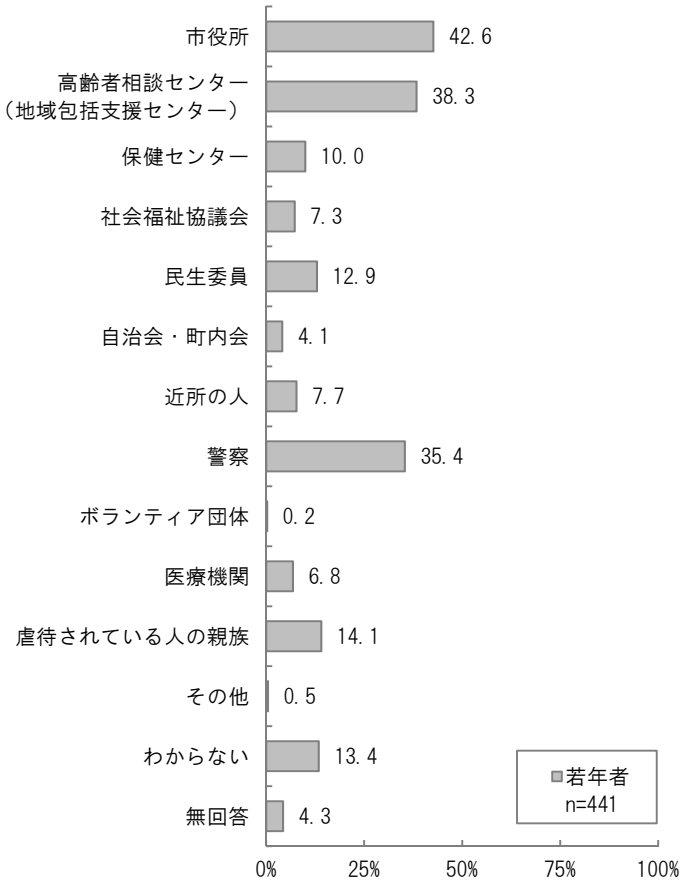
Ⅷ-問3　「高齢者虐待」についての周知状況



若年者 n=441

○「高齢者虐待」を疑った時の相談先をみると、「市役所」（42.6%）が最も多く、次いで「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」（38.3%）、「警察」（35.4%）の順となっています。「わからない」は 13.4%でした。

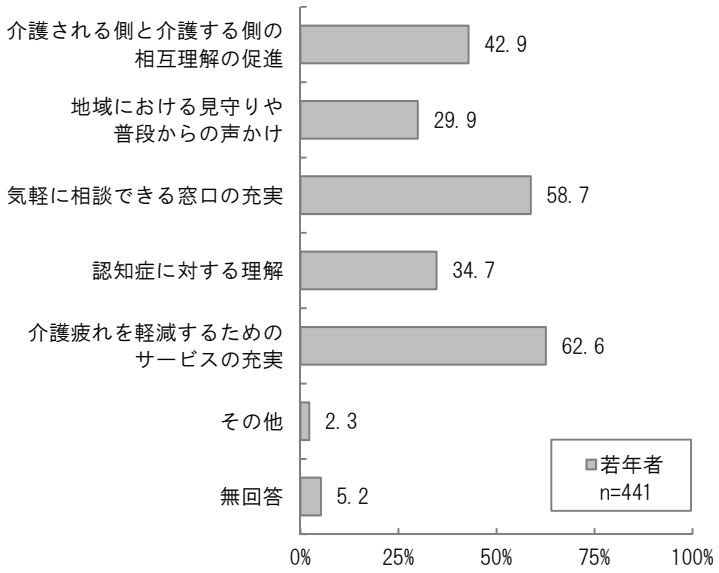
Ⅷ-問4　「高齢者虐待」を疑った時の相談先



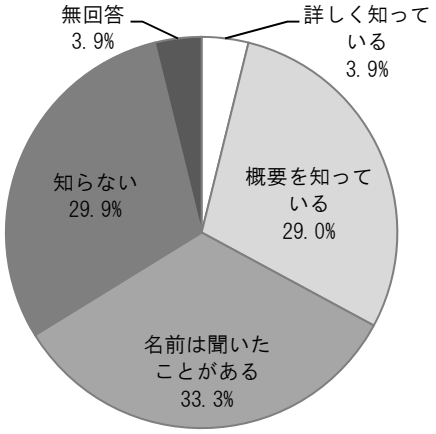
○高齢者虐待を防止するために必要なことをみると、「介護疲れを軽減するためのサービスの充実」（62.6%）が最も多く、次いで「気軽に相談できる窓口の充実」（58.7%）、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」（42.9%）の順となっています。

○「成年後見制度」についての周知状況をみると、「名前は聞いたことがある」（33.3%）が最も多く、次いで「概要を知っている」（29.0%）となっています。「知らない」は29.9%でした。

Ⅷ-問5　高齢者虐待を防止するために必要なこと



Ⅷ-問6　「成年後見制度」についての周知状況

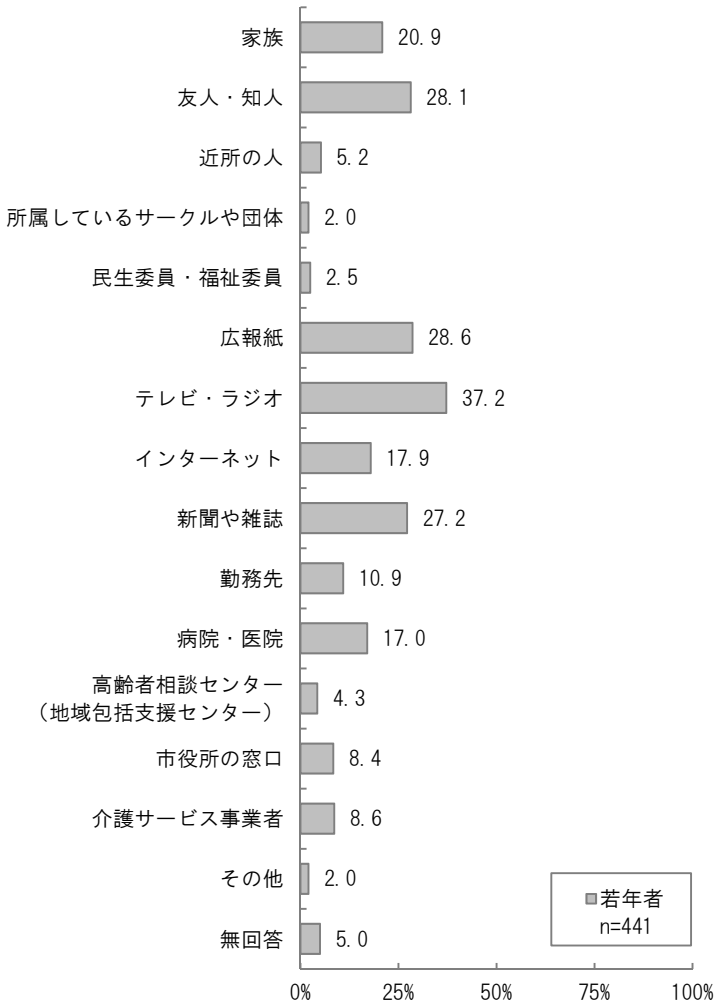


若年者 n=441

（３）介護・福祉・医療に関する情報について

○介護・福祉・医療に関する知識や情報の取得方法をみると、「テレビ・ラジオ」（37.2%）が最も多く、次いで「広報紙」（28.6%）、「友人・知人」（28.1%）、「新聞や雑誌」（27.2%）、「家族」（20.9%）の順となっています。

Ⅷ-問7　介護・福祉・医療に関する知識や情報の取得方法

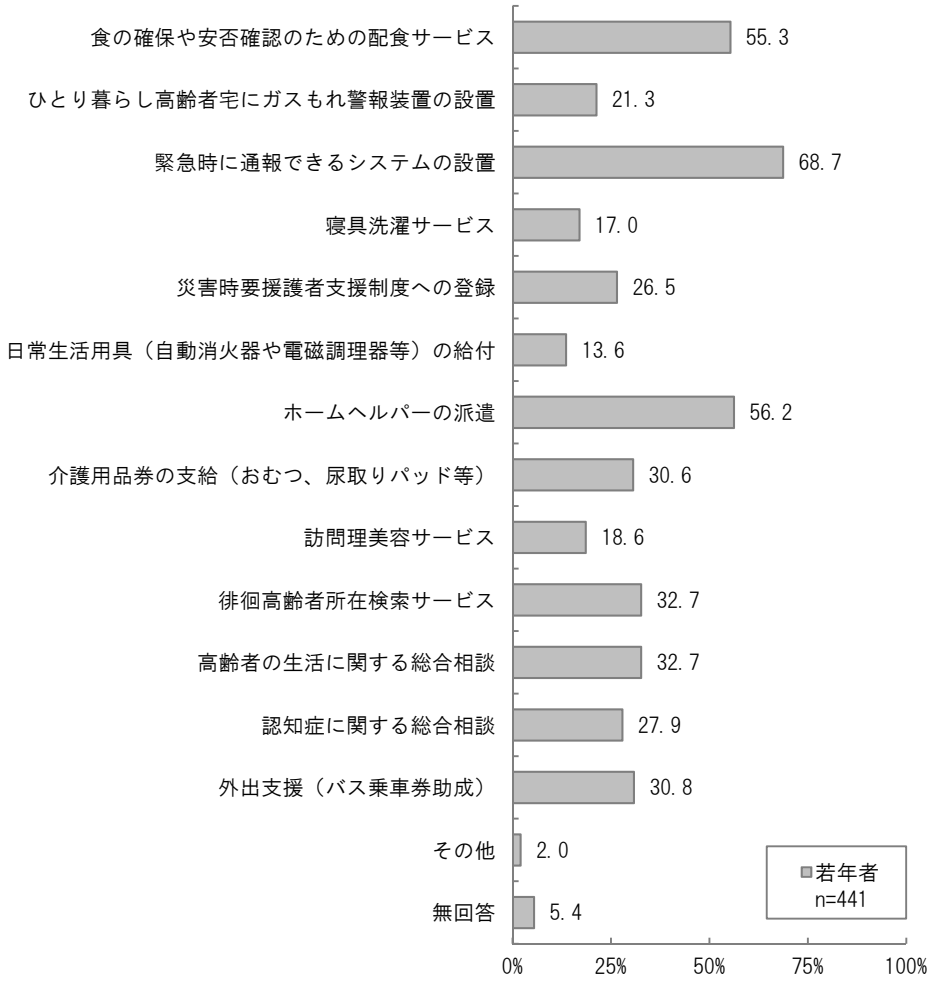


10　今後の高齢者福祉について

（１）必要な高齢者福祉サービス

○将来、必要性が高まると思われる高齢者福祉サービスをみると、「緊急時に通報できるシステムの設置」（68.7%）が最も多く、「ホームヘルパーの派遣」（56.2%）、「食の確保や安否確認のための配食サービス」（55.3%）の順となっています。

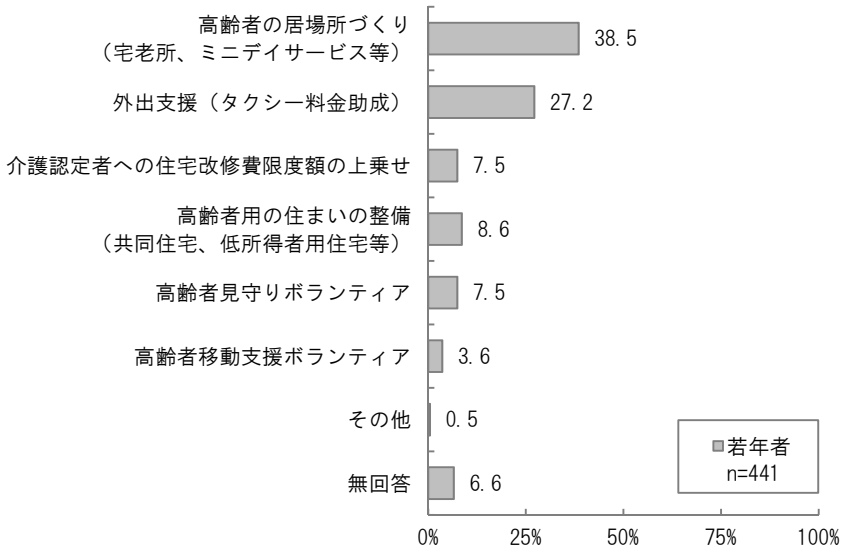
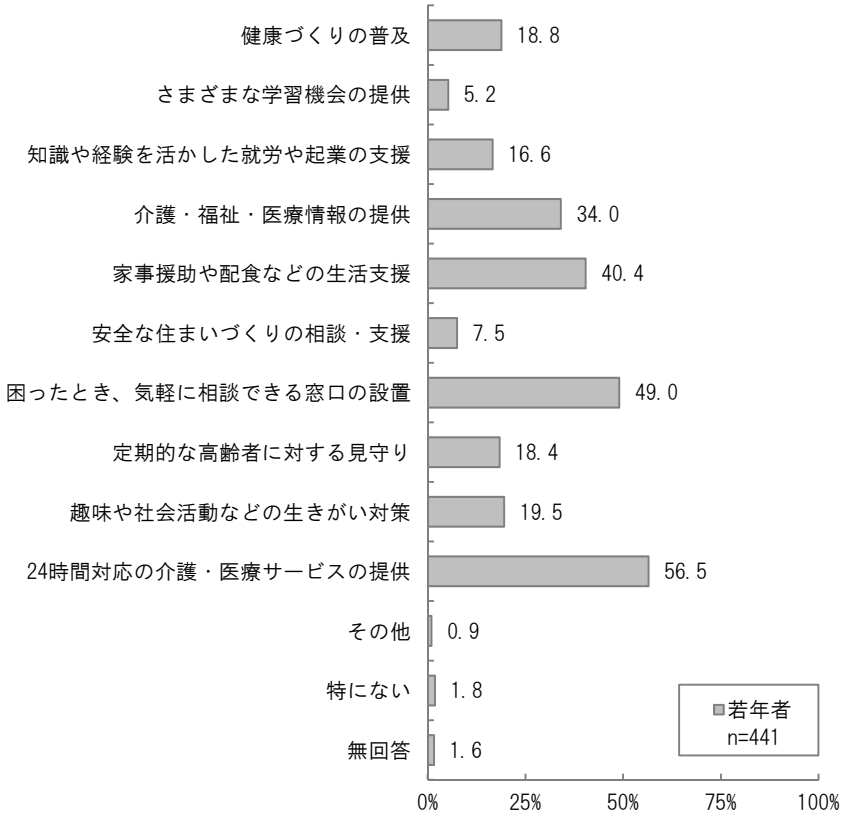
Ⅸ-問1　将来、必要性が高まると思われる高齢者福祉サービス



○豊川市で未実施の施策について必要だと思うものをみると、「高齢者の居場所づくり（宅老所、ミニデイサービス等）」（38.5%）が最も多く、次いで「外出支援（タクシー料金助成）」（27.2%）の順となっています。

○住み慣れた地域で最後まで過ごすために望む施策をみると、「24 時間対応の介護・医療サービスの提供」（56.5%）が最も多く、次いで「困ったとき、気軽に相談できる窓口の設置」（49.0%）、「家事援助や配食などの生活支援」（40.4%）の順となっています。

Ⅸ-問2　豊川市で未実施の施策について必要だと思うもの



Ⅸ-問3　住み慣れた地域で最後まで過ごすために望む施策